Global Explorers to Cross Borders
G.ecbo
広島大学大学院国際協力研究科　大学院教育改革支援プログラム拠点

# Newsletter

第3号　Vol.1.no3

グローバルインターンシップ推進拠点の形成（G.ecboプログラム）
10年後の自分を探そう 世界と出会うインターンシップ

発行日:2009年3月

お知らせ:

- グローバルインターンシップ〈G.ecbo〉プログラム第2回シンポジウムを開催いたしました。
- 2008年度第3回夏期派遣学生報告会開催しました。
- 遡上教育インターンシップ派遣を実施しました。
- 4月6日(月)13:30からG.ecbo Dayを開催します。

目次:


| | |
|---|---|
| シンポジウム開催 | 1 |
| 学生成果発表会報告 | 2 |
| シンポジウム報告・活動報告 | 3-4 |
| 遡上教育派遣レポート他 | 5 |
| 2008年度夏期派遣学生帰国レポート | 6-7 |
| 活動予定 | 8 |


## 第2回G.ecboプログラムシンポジウム開催しました

第2回グローバルインターンシップ推進拠点(G. ecbo)年次総会を平成21年2月4日(木)に広島大学学士会館レセプションホールにおいて行ないました。

第1部にグローバルインターンシップ派遣学生活動報告として、派遣学生たちによるインターンシップ成果発表会を行ないました。【P2記載】

続いて第2部に開催したG. ecboシンポジウムでは、『いかに現場での体験を「臨床の知」へと高めるか－インターンシップを契機とした大学院教育の新たな展開－」をテーマとして、他者とのかかわりや文脈を重視して事象を捉えていく「臨床の知」をキーワードに、現場での学生たちの活動を経験・体験のレベルに留めることなく、より複合的かつ高次な知見へと昇華・蓄積していくための教育方法をどう確立していくかについて議論いたしました。

京都大学大学院教育研究科
桑原知子　教授

京都大学GP「臨床の知を創出する質的に高度な人材育成」代表である桑原知子教授（京都大学大学院教育研究科）にお越しいただき、「臨床の知とは何か－心理臨床の場をヒントとして」をテーマに話題提供の講演をしていただきました。いかにインターンシップが終了した後の教育方法を確立していくべきかの指針を示す密度の濃い内容で教職員の参加も多く見受けられました。

講演に続いて行なわれたパネルディスカッションでは、本学教育研究科岩崎秀樹教授がモデレーターとして、パネリストとして川辺みどり氏（東京海洋大学海洋科学部准教授）、山根英幸氏（マツダ財団常務理事・事務局長）そしてG. ecboプログラム参加研究科から平田大教授（先端物質科学研究科）、肥後靖教授（国際協力研究科）、また派遣学生の視点から討論に参加の2008年度夏期派遣学生の山下早紀子さん（生物圏科学研究科博士課程前期）も交えて活発な議論が行なわれました。

# 第2回グローバルインターンシップ推進拠点年次総会

【日時】2009年2月4日（水）9:50~17:00
【場所】広島大学学士会館2階レセプションホール
【プログラム】

## 第1部　グローバルインターンシップ派遣学生活動報告

本年次総会の第一部では、主に2008年度夏期に実施されたグローバルインターンシップの活動報告を行った。今年度は新たに3研究科が参画するとともに、国内企業やアフリカ、ヨーロッパへと派遣先も拡大されたが、こうした広範な地域で行われた多彩な活動の様子が、学生達によって発表された。会場から活動内容や今後へ向けての提言について様々な質問がなされたが、それらに対し物怖じせず応答する学生達の姿に現場体験で培われた技量や自信の一端を垣間見る

**・複合融合分野海外インターンシップ参加者を代表して「フィリピンの水資源管理に関するインターンシップの経験」（フィリピン）：難波 一宏（国際協力研究科）**

・専門分野海外インターンシップ参加者を代表して
「高雄長庚記念醫院でのインターンシップ」（台湾）：
高岡 勇輝
先端物質科学研究科

・競争選抜参加型海外インターンシップ参加者を代表して
「JICAガーナ事務所での私のインターンシップ経験」
（ガーナ）：Jeon HyeonJeong
（国際協力研究科）

「常石重工業(THI)におけるインターンシップ」（フィリピン）：
工学研究科2名
a. 「Outfitting 部門における部材管理手法の提案」：後藤 皓二
b. 「ブロック製造工程における作業遅れの分析」：下反 貴裕

・国内インターンシップ参加者を代表して
「㈱サタケにおける国内インターンシップ経験」
（日本）
張 前（国際協力研究科）

ことが出来た。

《講評》池田秀雄　国際協力研究科長・教授

国際NGOや住民参加型の開発プログラム主導の研修、途上国での日本企業・機関での研修や日本以上に研究の進んだ国での研修そして留学生からみた日本企業社会など様々な形のインターンシップがあるけれども、インターンシップでいろいろな国での実情を学ばれて大きな経験となったことと思います。
国際協力研究科という立場からすると、広島大学の伝統でもある『何もないところからどのように教育・研究を行うか』を礎として広い視野を持っていろいろなことを考えて欲しい。援助対象国の実情を踏まえて、その国・地域のニーズに合ったやり方を実践できる、その国の発展にどのように寄与できるかを考察できる人材を育成するプログラムになればと考えています。

## 第2部　グローバルインターンシップ推進拠点シンポジウム

### テーマ『いかに現場での体験を「臨床の知」へと高めるか
### - インターンシップを契機とした大学院教育の新たな展開 - 』

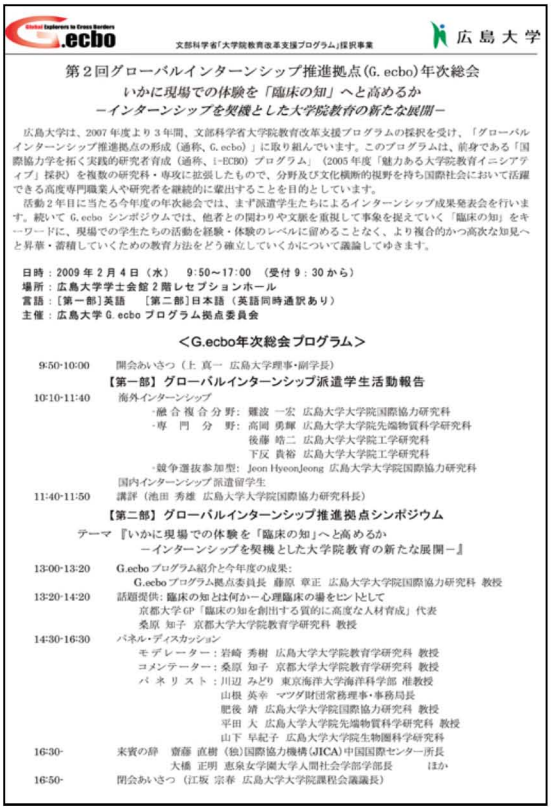
話題提供「臨床の知とは何か - 心理臨床の場をヒントとして」：
京都大学大学院教育学研究科　桑原 知子 教授

パネルディスカッション：
モデレーター　広島大学大学院教育学研究科　岩崎 秀樹 教授
コメンテーター　京都大学大学院教育学研究科　桑原 知子 教授
パネリスト　東京海洋大学海洋科学部　川辺 みどり 准教授
マツダ財団　山根 英幸 常務理事
広島大学大学院国際協力研究科　肥後 靖 教授
広島大学大学院先端物質科学研究科　平田 大 教授
広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程前期　山下 早紀子氏

第二部では、本プログラムの核であるグローバルインターンシップでの活動を経験・体験のレベルに留めることなく、より学際的(transdisciplinary)、かつ高次な知見へと昇華し、その蓄積を促すような教育のあり方について「臨床の知」をキーワードにシンポジウムを開催した。

まず、「京大型臨床の知」GP代表の桑原知子教授は、心理臨床におけるご自身の体験を引用しつつ、対象との関わりや文脈（多義性）を重視した「臨床の知」によるものの捉えについて講演を行った。続いて岩崎秀樹教授の司会の下、本プログラム担当者と参加学生がそれぞれの立場から自らの実践とその省察を行った。また、川辺みどり准教授は、現場での体験を省察し蓄積する手法としてケースライティングの可能性について提言を行った。会場からは、「臨床の知」における因果律の捉え方や実際にケースを書く場合の事例分析の程度、描写可能な事象の範囲について質問がなされた。

インターンシップ前後の学生の変化は、多くの関係者の眼には明らかではあるものの、その変化の内実を捉え明確に指標化することは非常に困難である。本年次総会では、こうした一見曖昧な変化の本質に触れ、その良さを伸張させる試みに対する発想の転換を促す良い機会になった。また、プログラム関係者のみならず、会場の参加者に対しても日々のものの捉え方について問題を投げ掛けるような会となり、個々の心の中に余韻を残すようなシンポジウムとなった。



パネルディスカッションの様子

グローバルインターンシップを通じて、自らを現場そして異文化社会に身を投ずることにより多様な体験をし、大学だけでは得られない多くの体験を得ることが出来る。その貴重な経験をただ一過性の『経験』『体験』として過去の出来事とするのではなく、事後研究や得られた知見の蓄積・共有の部分をプログラムとして発展・強化していく必要性があることを再認識した。

マツダ財団事務局長　山根英幸氏
（中央）
他者からの働き掛けを受け止めながら振舞うということから、ディベート演習を通じての論理的思考とコミュニケーション能力の重要性を説かれました。

東京海洋大学　准教授
川辺みどり氏
インターンシップ後をいかに発展させていく手法の一つとして現場での経験を考察して蓄積させていく手法（ケースライティング）の可能性について語っていただきました。

生物圏科学研究科　山下早紀子さん
インターンシップ参加学生の視点からインターンシップ事前研修を受けてから、インターンシップから帰ってからの変化を臆することなく発表していただきました。

本シンポジウムの詳細な議事録については、2008年度中間報告書シンポジウム資料編にて掲載の予定です。入手ご希望の方はG.ecbo事務局までご連絡くださいませ。

## 活動報告　2008年度第4四半期（11月-2月）

| | |
|---|---|
| **11月7日** | 2008年度遡上教育プログラム派遣学生の面接選考　実施 |
| **11月10日** | 事前研修ガイダンス　実施 |
| **11月20日** | 第1回英語プレゼンテーション研修　実施 |
| **12月12日** | 第2回リスク管理セミナー　開催 |
| **12月18日** | 第2回英語プレゼンテーション研修　実施 |
| **1月8日** | 遡上教育プログラム事前PPT研修　開催 |
| **1月15日** | 第3回英語プレゼンテーション研修　開催 |
| **1月22日** | 夏期海外インターンシップ帰国報告会(第3回)　開催 |
| **2月4日** | 第2回グローバルインターンシップ推進拠点(G. ecbo)年次総会　開催 |
| **1月～** | 遡上教育インターンシップ派遣　実施 |
| **2月** | 特定機関への夏期インターンシップ派遣学生選考　実施 |

## 遡上教育インターンシップレポート/Follow Up research internship Report

〈Venue of Internship/研修先〉ザンビア大学 University of Zambia
〈Duration of Internship/研修期間〉2009.01.17-2009.03.02
〈Research theme/研究テーマ〉開発途上国における数学の授業開発に関する研究

ザンビア大学の先生たちと
With Professors in Univ. of Zambia

私は、Gecboプログラムフォローアップ教育の一環である遡上教育プログラムで、南部アフリカのザンビア共和国（以下、ザンビア）に2009年１月から３月まで派遣されていました。私の赴任先は、ザンビア唯一の国立総合大学であるザンビア大学教育学部理数科コースでした。ザンビアは、博士課程前期在学中に2年間滞在していたこともあり、今回で通算３度目の訪問でしたが、相変わらずの過ごしやすい気候の下、色彩鮮やかな緑や花々と美しい青空、温厚で笑顔が素敵なザンビアの人々と再会を果たし、有意義な１ヵ月半の滞在を送ることができました。現地では、午前中に大学を訪問し、大学間で作成中の学術雑誌の編集や研究に関する議論を大学の先生方と行い、午後からは自身の研究調査の実施のために、現地の基礎学校（日本の小・中学校に相当）を訪れ、現地の数学教師と共に数学の授業を共同で開発する試みを行いました。

今回も、旧友との再会も加え多くの新しい友人に囲まれ、ザンビアの人々は、本当に心が優しいことを実感しました。ザンビアの子どもたちも、生活環境や家庭環境が恵まれていない子もいましたが、皆が毎日逞しく、そして楽しく生活している様子を垣間見ることができ、私の方も一層研究生活を充実させていこうと気持ちを新たにすることができました。このような機会を与えて下さった先生方、スタッフの方々に感謝致します。

共同研究者の現地の先生と
With Associate researcher/Local school teacher

## 速報 Letters from G.ecbo internship participants

Luni Piya : A letter from Nepal

Dear all
I am doing fine at FORWARD. Last few days I have been visiting some sites in Makawanpur district and doing some group activities there. My field activities are going on fine.
Today I am at the FORWARD head office in Chitwan. I am preparing for the seminar presentation which I am going to deliver here at FORWARD on March 5th. I have attached a pic from my field visit.
Hope everyone else are having good time in your respective places.

Akane Morinaga：A letter from Bangladesh

Hi, thank you for concerning about the situation here in Dhaka.
As all of you may know, there was outbreak of shooting due to Bangladesh guard mutiny in Dhaka and many people including civilians were killed. To follow Grameen Bank's directions, I've been spending time at hotel since Wednesday the day firefight broke out. I've been doing very fine since first day of my internship.
Last week I stayed for 4days in rural area which is around 2-3 hours far away from the capital, to learn and observe GB's grass-roots activities. The village and Branch Manager's home I stayed were so nice and I found that I prefer rural area rather than the capital because of nature, people's hospitality, better environment (silence, cleanliness)...
I hope I can go to GB head office tomorrow and want to start my internship with Grameen Shakti. I'd like to attach a photo which was taken with Dr. Yunus. Luckily I could see him on the second day of my internship.
Well, that's all for now and I'd like to wish you all the best for you. Take care.

**インターンシップ中にバングラデシュ・ダッカにて国境警備軍BDR反乱がおこり、インターンシップ中止帰国も視野に入る状況でしたが、無事に現地の秩序も回復して、インターンシップも再開されました。**
**リスク管理セミナーの重要性と現地情報収集の重要性を再確認した出来事でした。**

# 2008年度夏期派遣学生　帰国レポート

## Phetkeo Pumanyvong　*(Laos 出身)*

| | |
|---|---|
| Onsite institution | UNESCAP, the United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (ESCAP) in Bangkok. Thailand |
| Period of internship | 4 August 2008-29 October 2008 |
| Field | ・Eco-efficient and Sustainable Urban Infrastructure Development in Asia and Latin America |

## Impression of Internship

世界各地から集まったインターン学生と
With other internees from all over the world

This internship was an incredible experience that I could never gain elsewhere except for from participating in G.ecbo internship program. It brings a great number of benefits in terms of professional and personal development. As a doctoral student, I am looking for a research theme that I can contribute to finding possible solutions to economic, environmental and social issues facing the world today. This internship has enabled me to gain a better understanding of the complexity of these problems, and to identify the possibility of my future research direction and contribution. In addition, because of the internship, I was able to interact and work closely with UN environmental experts, helping gain practical experience and strengthen my knowledge and research skills in the relevant field.

Additionally, the internship brought me several personal benefits. First, due to this internship, I was able to meet and know many excellent interns from various countries. This opportunity allowed me to broaden my perspective on global issues, and build a strong global human network. Through personal interaction and discussion with my fellow interns, I have learned my strengths and weaknesses as well as our commonalities and differences. It helps enhance my interpersonal and communication skills. Moreover, this internship offered me a platform that I was able to spend and share a wonderful time with other interns and UN staff as well.

## Advice to next internship student

↑研修中：同僚とのひととき
A moment during the internship
↓タイの休日　Holiday in Thai

Since most of the time UN interns conduct themselves independently, it would be wise to make a clear workplan based upon your received assignments and responsibility, to consult periodically with your internship progress with your supervisor. Furthermore, do not feel hesitate to discuss and raise questions or difficulties facing you while doing an internship. In general, UN staff adopt western working styles-free to discuss, argue and raise questions. On top of that, take some time to meet and get to know other interns will help you feel relaxed and build a strong human network. This will be an incredible experience.

## Life in Bangkok

Despite the fact that there have been several political turmoils during my internship, in general, Bangkok is a safe place to live or temporarily stay. In Bangkok, people are very friendly towards foreigners, especially foreign tourists. In addition, Bangkok is one of the hottest tourist destinations in the world, there are a lot of places worth to visit such as the Grand Palace and the weekend market. You can enjoy a lot of things during daytime and nighttime. However, please be careful while crossing the street since traffic light systems are very confusing. Moreover, while walking in a crowded street or a place, please watch out for yours belongings.

# 難波 一宏 Kazuhiro Namba

| | |
|---|---|
| 派遣先 | ICLEI-Local Governments for Sustainability Southeast Asia<br>地球温暖化、水資源対策など、環境に関する問題に関して地方の行政組織を支援する国際的非政府組織（NGO） |
| 研修期間 | 2008年10月20日 ～ 2008年12月19日 |
| 研修内容 | 1週目：主に受入機関が行っている業務について説明を受け、スタッフや関係者との話し合いを行った。<br>2週目：現地調査に赴く2都市について説明を受け、そこでの水資源に関するプロジェクトについて資料を入手、目を通した。<br>3週目：現地で聞き取り調査を行うために資料を作成、スタッフの協力のもとに現地語に翻訳した。<br>4週目：最初の訪問地であるBaguio市に赴き、下水処理場見学、及び第１回目の聞き取り調査を行った。<br>5週目：第2回目の聞き取り調査を行い、同時進行で水道局での情報収集に努めた。また保健管理局などに赴き、聞き取り調査を行った。<br>6週目：第3回の聞き取り調査、水資源確保の支援をしているNGO訪問、国家行政機関地方局などに赴き、聞き取り調査をした。<br>7週目：第2番目の訪問地であるMunoz市に赴き、聞き取り調査を行った。<br>8週目：得られた情報の整理を行った（体調を崩したため、週の半分は休養していた）。<br>9週目：情報整理、発表資料作成を行った。 |

## Impression of Internship/研修のまとめ

あっという間の2か月で、今思えばあれもしておけば、これもしておけばよかった、と思うことがいくつかあるが、欲を言えばきりがないので得られたことに大きな感謝をしたい。今回地方の2都市に訪問させていただき、そこでの経験は大変貴重であった。アレンジ及び配慮をしてくださった日本及び任地でのスタッフの人々に、大いに感謝している。この場をお借りしてお礼を申し上げたい。最初の3週間は事務所での事前作業であったがこれだけ準備期間が取れたので、実際に任地に行った時にあわてずに行動できたと思う。ただ英語能力の問題から、正確に情報を把握できていたわけではなかったので、そこが反省点である。私の能力ではいたしかたがないとは思うが。現地では時間を無駄にすることなく行動できたと思う。当然日本と違い、対応にかかる時間が遅れることは承知しており、極力現地の人々のペースに合わせて依頼、行動したつもりである。コミュニケーションもうまくとれ、問題が生ずることはなかったと思う。今回の調査がどのように研究にうまく結び付けられるのかは、この先勉強を続けないとわからないが、ただ一つ言えることは今回の経験が実体験として大いに役立ったということである。研究と実際の状況、状態との食い違いがあることは世の常であるが、その違いを意識させてくれたことがこの研修の一番の収穫かもしれない。

With ICLEI office members

フィールド調査
During Field Research

## Advice to next internship student

どうしてもわからないことが多いと思うので、どんどん聞いてコミュニケーションを取ることが大事と思われる。英語能力不足から理解できていなかった点が反省点として残るが、とにかくいろいろ聞いてよかったな、と今になって思うことがいくつかある。恥ずかしがらずに聞くことが大事と思われる。

## 2009年度第1-2四半期
## 活動予定

*G. ecbo Day開催　4／6予定

*2009年度夏期派遣学生募集・選考審査（4月ー5月）

*夏期派遣学生ガイダンス実施

*冬期派遣学生帰国報告会（５月中旬）

*事前研修：英語プレゼンテーション研修開始

*事前研修：PBL講義、演習科目他の履修開始

*2009年度第1回リスク管理セミナー開催（7月）

*夏期インターンシップ派遣

## G.ecbo Day 開催のお知らせ

**日時：4月6日(月)13：30－(予定)**
**場所：国際協力研究科(IDEC)大会議室**
**内容：**
**G.ecboプログラムの概要説明及び申請について**
**TA/RA主催によるプログラムQ&A、個別相談会**

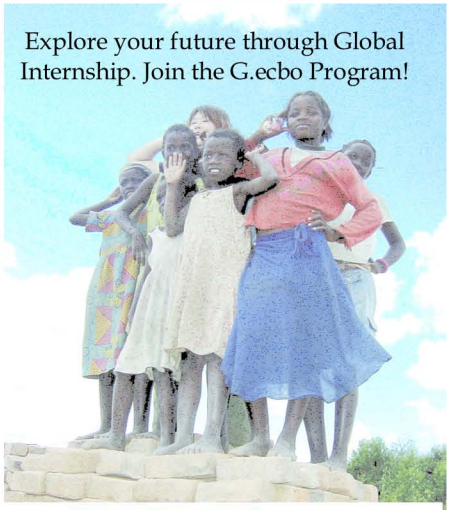
**申し込み等は不要です。興味のある方はふらってご参加ください。**

## 退職・転出のお知らせ

Karen Anne Jago-On
研究員
担当されていた英語PPTプレゼンテーション研修では、厳しくも的確なアドバイスで派遣学生達に慕われていました。自身の研究に専念するため、退職されることになりました。

谷口万里子
ティーチングアシスタント(TA)

G.ecboプログラム修了生としてTAとしてプログラムの発展に寄与してくれていましたが、2009年より外務省草の根無償資金協力外部委嘱員としてナイジェリアへ赴任されました。2年後に一層たくましくなって戻られるのを楽しみにしております。




Global Explorers to Cross Borders
G.ecbo

広島大学大学院国際協力研究科
〒739-8529　広島県東広島市鏡山1-5-1
電話 082（424）6950
FAX 082（424）6904
Email: iecbo@hiroshima-u.ac.jp

## 事務局編集後記

2008年度冬期派遣学生もほとんどがインターンシップに出発してグループメールに頑張っている様子を伝えてきています。そこで得られる経験は、個人差はあるにせよ、今後の彼らの人生にインパクトを与えてくれる経験となると考えています。今回のシンポジウムで討論されたように、インターン参加生各々の『臨床の知』を得ることが出来ればと感じます。来年度はすでにプログラム最終年度に入りますが、学生のためにより良いプログラムとなるように改善を続けていく所存です。（G.ecbo事務局）

## 次号予告

内容：

＊冬期派遣学生の報告

＊G.ecbo Day レポート

＊2009年度夏期派遣学生選考結果

＊ECBO修了生からの声

＊派遣先企業からの声
他

ホームページもご覧下さい。http://www.hiroshima-u.ac.jp/gecbo/index.html